特集3｜ホスピタリティに見るデザイン

11

DESIGNING FOR HOSPITALITY

ホテルのインテリア

奈良ホテル｜Nara Hotel

「奈良ホテル」は、2009年に生誕100年を迎えた。
創業は1909年、"西の迎賓館"として奈良公園の高台に聳え立った。
設計は辰野金吾。東京駅や日本銀行本店を設計した建築界の重鎮が
古都・奈良に違和感なく溶け込むことを第一義に、
そして、鹿鳴館にも勝る豪華さと荘厳さを兼ね備えたホテルとして設計した。
それは和洋折衷スタイル…、まさに威風堂々の存在だった。
爾来、昭和天皇を始め皇族の方々をお迎えしているばかりか、
政府要人、国内外の賓客、文豪に慕われてきた。
今も変わらぬ毅然とした姿は、奈良のシンボルでもある。

"何も変わらないこと…"、それは「奈良ホテル」を象徴する言葉だ。
「原型を留めるクラシックホテルのNo.1は奈良ホテル」といわれる由縁だ。
2006年、リニューアルによって現代風にアレンジした客室4室を新設した。
オリジナルの優雅さを変えることなく時代の変化をさりげなく馴染ませ、
成熟した魅力を見事に生み出した。

俗世間を離れ、優雅で贅沢な雰囲気に酔いしれるあの空間が、あの風景が…と、
リピーターを駆り立てるのだろう。
スタッフの洗練された対応も、ホテルライフの心地良さに拍車をかける。
「奈良ホテル」には"いつ来ても変わらない"美学がある。

メインダイニングルーム「三笠」：格天井とシャンデリア、布張りのイスが重厚かつ華麗な印象を与えている。壁面に飾られた横山大観らの作品を眺めながらとる食事は格別だという

「奈良ホテル」は1909年、奈良公園の一角、名勝・旧大乗院庭園を見下ろす飛鳥山の高台に誕生いたしました。その頃の日本は日露戦争の勝利で、好景気に沸いていた時代…。次第に海外の要人が来日するようになり、日本鉄道院の後ろ盾を得て、「奈良ホテル」は“迎賓館”の役割を担うホテルとして建設されました。総工費は当時の金額で35万円、鹿鳴館の約2倍という力の入れようで、絢爛豪華なホテルだったことがうかがわれます。数名の宿泊客に対し、10倍のスタッフでもてなした…との逸話も語り継がれております。1913年には、鉄道院所有の国営ホテルになり、政府関係者の利用が増え、一般客は会社の重役以上に限るなど、ますます迎賓館としての意味合いを強めていきました。

建物は、当時の建築界の重鎮、東京駅や日本銀行本店を設計した建築家・辰野金吾によるものと伝えられております。辰野は、入母屋にハーフティンバーの和洋折衷スタイルでまとめ、周辺の東大寺や興福寺などの景観に配慮してデザインしたと評されております。

私どもが最も大切にしているのは、“いつ来ても変わらない”こと。鴟尾を持つ瓦屋根を始め、玄関の吹抜け、大階段など、基本的な構造は100年を経ても変わらぬ姿を維持しております。大正天皇が訪れた際に備えた廊下や客室のスチーム暖房は今も現役ですし、ロビーの桜の間にはゆらぎのあるガラス窓が明治の面影を残し、古き良き時代の雅やかな世界がお客さまの心を解きほぐすようでございます。日本のクラシックホテルの中でも、かつての面影をこれほど残しているホテルは素晴らしいと、高い評価をいただいており、うれしい限りでございます。2006年には、客室の大リニューアルを行い、水まわりや設備系統を刷新いたしました。また、老朽化した調度品なども、以前からそこにあったような、創業当時の雰囲気に馴染むことを第一に考えております。クラシックホテルに胸をふくらませて訪れたお客さまの期待に、いつの時代でもお応えすることが私どもの使命だと考えております。

当ホテルは、皇族の方を始め、国内外を問わず多くの著名人から愛されてきました。その方々へのおもてなしのノウハウは、規則を徹底して叩き込まずとも、100年の風格が自然とスタッフの襟を正しているようでございます。明治・大正・昭和の時代を受け入れながら熟成させてきた優雅な空間で、心身ともに安らいでいただきたいと願っております。（談）

HOTEL'S COMMENT

ホテルズ・コメント｜100年の歴史が醸し出す優雅な空間で…

森 一紀｜Kazunori Mori
もり・かずのり——奈良ホテル 専務取締役総支配人

1

2

3

4

5

6

1——高い天井と吹抜けが特徴的なフロント：奈良ホテル特有のゆったりとした時間の流れを感じる
2——奈良ホテルの象徴ともいえる正面玄関：ここに立つと、背筋をピンとせざるを得ない威厳が漂っている。木造のハーフティンバー様式で、付け柱や付け梁で社寺風を表現したといわれている
3——客室へと誘う大階段：品格ある赤い絨毯と木の手摺り、格天井が上品さを醸し出し、高揚感を与えている
4——階段の親柱には陶製の擬宝珠（ぎぼし）。日本の伝統的なデザインをさりげなく取り入れている
5——フロント吹抜け上部の照明：春日大社の釣燈籠を模したデザイン｜6——アインシュタインが宿泊した際に弾いたといわれるピアノ。桜の間に置かれており、そこに身を置くだけで、同じ時間を共有した気分になる…

7

8

9

10

11

7——ロビー・桜の間：中庭に面した穏やかな空間。戦時中に滞在したラウレル大統領の胸像や柱時計があり、100年という歴史の重みを感じさせる。柱時計から定時に流れる優しい音色はとても評判だ
8——メインダイニングルーム「三笠」の緑に面した客席：四季折々の景色が楽しめ、遠方には五重塔を望むことができる。食事をしながら奈良の風情を満喫できると人気が高い
9——創業時から使われている食器棚：何度も分解して組み立て直し、今も現役で活躍している
10——釘隠しは格式高く和風建築そのものだ。壁を紐で縁取るなど、細やかなデザインが随所に残っている
11——金の襖：御殿引き手や朱の飾り紐など、絢爛豪華なホテルをうかがわせる

創業100年を超える歴史と伝統を誇る「奈良ホテル」は、若草山、東大寺大仏殿、興福寺五重塔などが一望でき、文化財指定の旧大乗院庭園に連なる約13,000m²の大庭園を有しています。瓦屋根の本館は現代では大変珍しい桃山御殿風檜造り2階建てです。和と洋を調和させた内装は、宮殿の香りを漂わせています。

設計は当時の建築界を牽引した建築家・辰野金吾。伝統のある「奈良ホテル」を当時の面影を残しながら、21世紀に対応できる機能とデザイン性を加味して新しい客室4室が完成しました。

2006年の改修工事では、今の時代に必要なスペースを確保するために、客室2室を1室にする工事を行いましたが、その間の壁は70cmのレンガ壁で、解体作業は大がかりなものになり、室内にはレンガの山が出来ていました。

予定以上に解体作業および補強作業が長引き、一般の工事に比べて2倍以上の手間や費用がかかりました。近年のホテルとは違い、100年前の伝統と格式のある木造ホテルを維持するのは大変なことです。

檜造りにこだわり、100年以上の経年変化の色を着色などで工夫し、見えないところまで気を遣った改装で、4室で1億円以上かけた贅沢なつくりになっています。壁は川島織物の本クロス貼り、天井は4mほどの高さがあり、格天井をデザインしています。100年前の「奈良ホテル」は、もともと共同浴場がありました。以前の浴場はなくなっていますが、バスルームをつくるスペースを確保するのはとても難しかったため、今回、2室を1室にすることによってそのスペースを確保し、現代的なバスルームに変貌させました。

バスルームは伝統的な部屋のイメージとは対象的にライムストーンを使用し、現代的なイメージで温かで明るく、機能的で快適な空間につくり替え、「奈良ホテル」の新しい魅力を一層際立たせるようにデザインしました。

さらに「奈良ホテル」の特徴は、部屋に暖炉が備え付けられていることです。当時のイメージを大切にするために、今回は電気式ですが暖炉を設計しました。その上部に42インチのテレビを壁掛けで設置するという、他のホテルには見られない客室をデザインしました。家具や照明もすべて特注品です。創業時を思い起こさせるクラシック・テイストが残るモダン・スタイルを表現しています。

[建築概要]
名称：奈良ホテル
所在地：奈良県奈良市高畑町1096
敷地面積：21,618m² | 建築面積：3,523m² | 客室数：129室（新館含む）| 創業：1909年 | 改修：2006年（本館一部）
ホームページ：http://www.narahotel.co.jp
設計：辰野金吾 | 改修設計：スタジオ・エム

DESIGNER'S COMMENT

デザイナーズ・コメント | 奈良ホテル客室改修工事

柴田嘉夫 | Yoshio Shibata

しばた・よしお——（株）スタジオ・エム代表取締役／1941年生まれ。1966年、京都市立美術大学（現・京都芸術大学）工芸科デザイン専攻卒業。1966−92年、日建設計インテリア部。1992年、STUDIO M入所。1993年、（株）スタジオ・エム（STUDIO M）設立。
主な仕事：神戸ポートピアホテル［1981］、ホテルニューオータニ大阪［1987］、ホテルニューオータニ幕張［1993］など。

12

13 14 15 16 17 18

12——デラックスルーム Aタイプ：創業時の面影を色濃く残した客室。絨毯は正倉院文様の宝相華がモチーフで、客室も古都・奈良の魅力にあふれている
13——リビングスペース：奈良の風情に思いを馳せながら、ゆったりとした時間を過ごすにはぴったり
14——レトロ感漂うダイヤル式の電話が、クラシカルな雰囲気の客室に馴染んでいる | 15——アンティーク調のテーブル&チェア：隅々までこだわり抜いたデザインでまとめられている
16——鏡付きのタンスなど、味わい深い家具が客室を豊かな雰囲気に演出している | 17——客室に備えられたスチーム暖房は、今でも寒い冬の必需品として重宝されている
18——御簾を下げ、ベッドスペースとリビングスペースを何気なく仕切っている。木製の欄間も繊細で美しい

19

20 21 22 23

19——デラックスルーム Cタイプ：2室を1室にリニューアルした客室。ファブリックなどを刷新しつつ、高い天井と格天井は活かし、モダン・テイストの中にもクラシック感漂う客室にまとめている
20——現代風にアレンジした電気式の暖炉：従来の客室には暖炉が備えられていたことから、リニューアルした客室にも電気式に変えて活かした
21——バスルーム：廊下から浴室まで段差のないバリアフリーデザイン。ガラス扉によって奥行きのある広い空間が生まれ、さらに白系統でまとめたことによって清潔感のある水まわり空間を実現した
22——スタンダードルーム：木を基調にしてシンプルにまとめ、静謐な和の雰囲気を強調している
23——茶系統の落ち着いた雰囲気の調度品でまとめられ、心地良い時間を過ごせる贅沢なスペース